法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-06-01

Thames Path沿いに設置されている道標

Ishikawa, Ikuji / 石川, 郁二

(出版者 / Publisher)
法政大学多摩論集編集委員会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学多摩論集 / 法政大学多摩論集
(巻 / Volume)
30
(開始ページ / Start Page)
75
(終了ページ / End Page)
103
(発行年 / Year)
2014-03
(URL)
https://doi.org/10.15002/00009615

Thames Path 沿いに設置されている道標

石　川　郁　二

1．はじめに

イギリスの Thames Path を歩いていると、地図やガイドブックを持っている人たちが多くいます。それは、いつも地図などを手に持って歩いているということではありません。バッグやナップザックなどに入れて、Thames Path の確認をする時や、歩いている近辺の歴史や事跡を調べる時に読むことが多いのです。もちろん、近くに住んで散歩に来ている人たちはそのような物を持ってはいません。私が Thames Path を歩いている時に出会った、Thames Path を歩き通そうと思っている人たちは、ほとんどの人たちがガイドブックのようなものを持っていました。書店には Thames Path を紹介している本が多く並んでいますので、手に入りやすいのです。

しかし、歩いている時に、Thames Path の道筋を調べるために、いちいち地図を確認したり、ガイドブックの道案内を見たりする必要がないほどに、Thames Path には沢山の道標や標識があちらこちらに設置されています。これは歩く人たちが多いということを表しています。

ただし、道標が多いのは、全長約 290 km に及ぶ Thames Path の中流から下流の方であり、上流に行くほど数が少なくなってきます。Thames Path を 3 つの区間に分けました [1)]。都市型 Thames Path、郊外型 Thames Path、田園型 Thames Path です。

都市型 Thames Path である Thames Flood Barrier から Hampton Court までと、郊外型 Thames Path の Hampton Court から Oxford までは、かなりの道標や標識が見られます。私が Thames Path を歩いている時、散歩を含め、歩いている人たちに多く出会ったのもこの 2 つの区間でした。

その上流である田園型 Thames Path の Oxford から Thames Head までは、テムズ川の源である Thames Head に向かえば向かうほど、道標や標識は少なくなってい

きます。歩くことが好きなイギリス人の中でも、この田園型 Thames Path の区間は歩いたことがない、という人が何人もいました。この区間は、Thames Path に接続するのが他の区間に比べて不便なのです。そのようなこともあって、歩く人が少ないので、この区間の道標や標識などの整備が遅れているのでしょう。

Thames Path 沿いに設置されている道標、道しるべにはいろいろな種類があります。Thames Path 沿いの近隣に関する案内板や標識ではなく、Thames Path の歩く道筋を教えてくれる道標を調べてみました。そして、そこから何が分かるのか、ということも考察したものがこの小論です。

2. Thames Path と Public Footpath

Thames Path と Public Footpath とはどう違うのでしょうか。

「写真 1」の道標には、「THAMES PATH」の文字の横に「ドングリの印」があります。ドングリの印は National Trail を示しています。ですから、このドングリの印がある道は、たとえ私有地の中だとしても、歩いても構わない道なのです。ただし、歩く以外のことは、常識の範囲内で気を付けなければなりません。

「写真 1」の Thames Path の道標の中に書かれている矢印の中に「Public Footpath」という英語が見られます。「Public Footpath」とは「公衆が歩く権利のある歩く道」ということです。「写真 2」にある下のほうの丸い道標には「Public Right of Way」と書かれています。つまり「公衆の通行権のある道」ということを明示しているのです。つまり、Public Footpath には公衆が通行する権利があるのです。

Thames Path と Public Footpath は、歩いて通行できる道ということでは同じなのですが、Thames Path はテムズ川沿いの Public Footpath ということで、Public Footpath は Thames Path だけではありません。その良い例が「写真 3」と「写真 4」です。「写真 3」では Thames Path の文字の下に Public Footpath と書かれていますが、「写真 4」では Thames Path の方向と違う方向に Public Footpath の標識があります [2)]。つまり、Thames Path は Public Footpath と同じ道なのですが、Footpath は「歩く道」なのですから、Thames Path 以外にもあるということです。イギリス国内には、他にも沢山の「歩く道」があるのです。

Thames Path 沿いに設置されている道標

写真１

写真２

写真３

写真４

3. 金属製の道標

Thames Path 沿いに設置されている道標の中で、一番多いものは金属で出来ている道標です。金属でできている道標と言っても、いろいろな種類のものが設置されています。

先ほどの「写真 1」は鉄柱に設置されている道標です。道標の先端が「く」の字型になっており、それは方向を表しています。

「写真 1」のように Thames Path の道標のために鉄柱が設置され、その鉄柱に金具で道標が取り付けられているものもあれば、交通規制の標識を設置するための鉄柱に、Thames Path の道標が取り付けられている場合もあります。「写真 5」は交通規制板、サイクリング・ルートを示している標識、そして Thames Path の道標という順序で、3 つの標識がそこにはあります。そして、この Thames Path の道標には、近くの施設、町の名前、そして距離が書かれています。ここに書かれている距離

の数字の後の「m」はマイルを表しています。

このように距離が書かれているということは、歩いている人にとって、だいたいの目安になり、有り難いことです。

丸い鉄柱に道標が金具で取り付けられているもので、道標が左右にではなく、片方のみの場合が「写真 6」です。Thames Path の文字の下に書いてある「Walton on Thames」とは町の名前で、その町まで 4.5 マイルあるということです。

単に鉄柱を設置し、道標をその鉄柱に金具で取り付けてあるのではなく、道標のために作った金属の柱、道標は鋳物だと思いましたが、それが載っている写真が「写真 7」です。右の上にある道標には「THAMES PATH」とあり、その下に小さな文字で「Thames Barrier Gardens / & Green Chain Walk」と書かれています。公園と、Thames Path につながっている歩く道についての情報を提供しています。

その Thames Path の道標の下にあるのは、「THAMES CYCLE ROUTE」と書いてある標識で、サイクリングをしている人たちへの情報です。

写真 5

写真 6

写真 7

右と左の上の道標には、人が歩いているマークが先端のほうに付いています。

左側にある道標は、上のものは、近くの Charlton Station という駅名とそこまでの距離です。1 マイルと書いてありますので、約 1,600 メートルあります。その下の標識は右にあるのと同じで、サイクリングをしている人たちへの情報です。右と左の標識の先端のほうには、自転車の絵柄が描かれています。

この 4 枚の標識を見てみると、4 枚とも幅が違っています。つまり、柱に取り付けてあることは他の柱の道標と同じなのですが、それぞれの道標や標識の幅に合わせて、柱の区切りの幅が作られています。ですから、単に鉄柱を立てて、その鉄柱に金具で後から取り付けた、ということではないのです。

この柱の一番上には、ドーナツ形の丸いものが取り付けられています。そこには上側に「THAMES」とあり、下側に「BARRIER」と書かれています。この道標は Thames Path の下流の最先端の Thames Barrier がある傍に設置されている道標です。明らかにこの場所用に作られたものです。ちなみに、印刷が白黒で、色が分かりませんので書いておきますと、右と左の上のものは白枠に中が黒色です。下の左右のサイクリング用のものは白枠に中が青色になっています。文字や記号はすべて白色で分かりやすくなっています。

同じような柱ですが、一番上のところがとんがり帽子のようにとがっているものが「写真 8」です。この柱には Thames Path の道標と、近くの Kew Gardens や Richmond Lock 等への距離が書いてある標識があります。歩いている人に分かりやすいように、すべての文字が大きく書かれています。

街灯の柱に付けられているものが「写真 9」です。Thames Path の道標だけではなく Thames Cycle Route の標識もあります。色はすべて黒色で、文字だけが白色になっています。

今まで見てきたものは、道標の先端が「く」の字の形になっており、方向を示していますが、長方形の看板に方向を表す「く」の字形のマークが描かれているものもあります。「写真 10」の道標は全体が青色で、文字と記号は白色です。ただし、左の一番下にある「North Greenwich」という駅名の横にある地下鉄のマークは、地下鉄のマークである色、つまり、丸い輪が赤色で、中が白地になっています。

この「写真 10」は、今までの道標の取り付け方とは違い、金具で柱に縛るように取り付けられているわけではありません。2 本の丸い棒が柱と道標をつないで

います。この道標はロンドンの中に設置されているものですから、Thames Path の道標だけではなく、他の情報の標識も一緒に付いています。

Thames Path という言葉はありませんが、Thames Path 沿いにあった Footpath を知らせる標識が「写真 11」です。この標識には「RAMBLERS JUBILEE / CIRCULAR WALK / FOOTPATH」と書かれています。ぶらぶら散歩する人に、一周できる散歩道を教えている標識です。

このような標識はいろいろあるのですが、例えば、標識のある場所は Thames Path 沿いではなく、Thames Path の近くに設置されているものが「写真 12」です。この標識は Thames Path が通っている方向を示している標識です。この標識には「To The Thames Path」と書かれています。Thames Path を歩きたいと思っている人にとっては有り難い標識です。Thames Path への接続が簡単になります。

Thames Path の道標の中に書かれている近隣案内が、上に載せた近隣案内とは違うものが「写真 13」にあります。これは Thames Path の道標を作る時に一緒に書

写真 8

写真 9

写真 10

写真 11

かれた近隣案内というわけではなく、あとから近隣案内だけ作って道標に貼り付けたもののようです。「THAMES」の「T」と「H」の下が少し隠れています。また、近隣への距離の単位がキロメートルになっています。このような掲示の道標はあまり見かけませんでした。

サイクリングをしている人に情報を与えるために立てられた鉄柱に、Thames Path の道標を取り付けたものが「写真 14」です。一番上の丸い部分には「National Cycle Network」と書かれていますから、サイクリングをする人用に設置されているものです。サイクリングを楽しんでいる人たちも多くいるのです。写真の中の大きな標識には、人の形と自転車の形を見ることができます。その標識の下に Thames Path の道標が見られます。

このように歩く人と自転車に乗る人が、一緒に通行することができる道には、両方のマークが道標や標識に描かれていることが多いのです。

「写真 15」では、三方に道が分かれています。どの道でも、歩いている人の絵

写真 12

写真 13

写真 14

写真 15

柄と自転車の絵柄が描かれていますので、歩く人だけではなく自転車に乗っている人も通ることができるのです。

歩く人だけという標識もあります。「写真 16」は Thames Path 沿いにあった標識です。「footpath」とありますから、自転車は通行できません。土地の所有者が牧草地の一部を「歩く道」として提供してくれたもののようです。牧草地に入らないように柵が設置されています。この柵は歩く人が牧草地に入らないように、というだけではなく、放牧された家畜が歩く道のほうに出ないように、柵を設置してあるのです。

大きな畑の端にある Thames Path には柵を設置していないところが多いのです。畑ですと、歩く人だけが農業の邪魔にならないように気を付ければよいということです。そして、農業をやっている人にとっては、柵があると、大きな機械を回転する時などに柵が邪魔になってしまいます。ですから、柵がないほうがよいのです。

しかし、放牧された家畜は、歩いている人がいると近寄っていく場合があります。田園型 Thames Path では歩く人があまり多くはいませんので、家畜からすれば、人が近くを歩いているということが珍しいのかもしれません。近付いてくることが多いのです。歩いている人にとっても、羊や馬、牛が人なつっこく近寄ってくると、間近で見たことがない人は立ち止まって、家畜が近寄るのを待っている場合があります。羊や馬ならまだよいのですが、牛、特に雄牛は角がありますので、時により、人が傷つく場合があります。危ないのです。

道標が白色をベースにして、外枠が青色、文字とドングリの印と「く」の字形が黒色、帆船の図柄は薄いオレンジ色というのが「写真 17」で、Thames Path 沿いに設置されているものです。しかし、この場所はテムズ川沿いではありません。川から少し離れている Thames Path です。右の上の大きな標識には「RIVERSIDE WALK」と書かれています。川沿いにある道への案内の標識です。

標識が白色のベースで、外枠と文字が黒色だけのものが「写真 18」です。上の「写真 17」に似た色の使い方ですが、このような色の使い方の道標はあまり多くはありません。今まで見てきたように、だいたいの道標は文字が白色というのが多いのです。

緑色をベースにしている道標で、外枠と文字が金色というものが「写真 19」です。

この道標は鉄柱も緑色に塗られています。柱の一番上に丸いものが乗っていますが、これも緑色で塗られています。

道標が湾曲しているものが「写真 20」で、このような道標は珍しいものです。ほとんどの道標は板状で真っ直ぐになっており、このように曲がっていることはありません。この道標は黒色をベースにして、外枠と文字が金色で、ドングリの印と歩いている人の絵柄は白色です。もちろん、柱も黒色になっています。湾曲している道標や標識の幅は、2 番目と 3 番目のものは同じ幅ですが、一番上の標識は幅が広くなっています。当然、柱に取り付けてある幅もそこだけ広くなっていますから、この道標と標識は柱も含めて、この設置場所用に作られたものだということが分かります。この標識には、距離だけではなく、到着するのに必要な時間も、単位は「分」ですが、表示されています。これもあまり見たことがないユニークな表示の仕方です。

もっと芸術的な道標を見つけました。「写真 21」です。このようなオブジェの

写真 16

写真 17

写真 18

写真 19

ような道標や標識は 4 種類ありました。「写真 21」以外には、「写真 22」、「写真 23」、「写真 24」です。自分たちが作った作品、そのような作品を Thames Path の道標として設置しようと思っている人たちは、Thames Path を愛している人たちと言えるでしょう。嫌いな人にそのような発想は起こらないはずです。

Thames Path を歩いている時に、このような道標や標識を見つけると楽しくなります。鋳物製だと思いますが、大量生産で作ったものでないのは確かです。単に、方向だけ分かればよいというものではありません。すべての道標が同じものに統一されていては、このような道標は作られないでしょう。歩いている人たちがこの道標を見ると、そこに立ち止まり、よく見ようとしますので、歩いている人にとっては心のオアシスにもなるものです。

写真 20

写真 22

写真 21

Thames Path 沿いに設置されている道標

写真 23

写真 24

4. 木製の道標

木製の道標は、だいたいのものが木の柱に穴をあけて、そこに道標をはめ込ませているものです。

「写真 25」は柱に道標をはめ込ませ、抜けないようにビョウで留めてあります。この道標には「THAMES PATH」の下に「Alternative Route」と書かれています。「代替ルート」「迂回路」という意味です。「代替ルート」というのは、正規の Thames Path 以外に通ることができる道です。Thames Path には急なアップ・ダウンはあまりありませんが、年齢が高く、急な坂道を上るのを避けたいと思っている人には便利な道です。また、Thames Path が通れなくなった時に、代わりに通ることができるルートです。当然ながら、Thames Path はテムズ川沿いを通っているルートが多いのです。例えば、大雨の後、Thames Path を歩いていて、洪水で Thames Path が通れなくなったことがありました。その時は別の道へ迂回しなければなりませんでした。そのような代替道路が Thames Path には多く設置されています。もちろん、普段その道を通っても構わないのです。この写真の道標の文字と記号はすべて白色で書かれています。

「写真 26」の道標は文字とドングリの印は白色ですが、右の道標の矢印は黄色で、左の標識の矢印は青色が使われています。右の道標には「THAMES PATH / Public

写真 25

写真 26

Footpath」と書かれています。左の標識は「Public Bridleway」とあります。これは「公衆の乗馬道」という意味です。

Thames Path を歩いていると、歩く人用の道、サイクリング用の道、そして乗馬用の道があります。それぞれが別の道になっていることのほうが多いのですが、中には歩く道とサイクリングの道が同じ道になっていたり、歩く道と乗馬の道が同じ道になっている区間もあります。ただし、乗馬用の道と一緒になっている区間は、サイクリング用の道と一緒になっている区間に比べて、そんなに多くはありません。自動車が通る道を歩くようになっている Thames Path もあります。歩道があればよいのですが、歩道がない場合は自動車が走っている道の端を歩かなければなりません。これは注意しないと危険なこともあります。場所によると、自動車が通る道の横に細長い草地があるだけの道があります。このような道は田園型 Thames Path に多くありましたが、その草地を歩くようになっています。

矢印が緋色に塗られているものが「写真 27」に見られます。一番上の左手前に向かうようになっている標識には、「Byway / Cholsey / Railway Station 1m」とあります。「わき道　チョルシー　鉄道の駅　1 マイル」という意味です。この標識の文字は白色ですが、矢印は緋色です。緋色の矢印はあまりありませんでした。下の左右にある道標は Thames Path のもので、矢印は黄色に塗られています。文字とドングリの印は白色が使われています。

Thames Path 沿いに設置されている道標

Thames Path の道標の矢印が青色のものが「写真 28」です。上の右手前に向かうように設置されている道標と、下の左にある道標は Thames Path のものです。下の右の標識は「Public Bridleway」とあります。これらの 3 つの矢印はすべて青色で、文字は白色を使っています。Thames Path に使われている色は普通は黄色ですが、道標によっては、他の色が使われている場合もあるようです。

標識の板に「FOOTPATH / NO CYCLES」とだけ書かれているものが「写真 29」です。ゲートの横にある杭に打ち付けてあります。「FOOTPATH」が黄色で書かれていますので、Thames Path と分かります。その板の上に丸い道標があり、矢印は黄色に塗られています。矢印の中にはドングリの印と「Thames Path」という英語が書かれています。

「FOOTPATH」の文字と三角形の矢印だけのものが「写真 30」です。表面が空色で、文字と三角形の矢印は黒っぽい灰色です。この標識の後ろには有刺鉄線がありますので、牧草地に迷い込まないように、土地の所有者が杭を 2 本打ち、この標識を設置したものだと思います。

今までの道標は活字体で書かれていましたが、斜体を使っている道標もありました。この道標は手作りのものです。活字体の無表情な感じではなく、暖かさや親近感を感じることができます。「写真 31」の道標の文字のほとんどは斜体です。道標の真ん中の上にある四角の中の文字は活字体で黒色が使われていますが、その文字は白色の中に書かれています。それ以外のところは黄色がベースになっており、斜体の文字は黒色です。全体が黄色になっていますから、Thames Path を歩いている人のために作られたものだということが分かります。文字の横に書いて

写真 27

写真 28

写真 29

写真 30

写真 31

写真 32

ある記号は食事ができる場所や飲み物を飲むことができる場所がある、鉄道の駅がある、といった案内を表しています。

道標の中央と、左右の「く」の字形の箇所が白色になっているものが「写真 32」の上の道標です。右側の道標にはバスのマークがありますから、バス停があるということです。このように、同じ道標の中で色が異なって使われているということは、明らかに目立つように工夫がされている、ということです。

下にある標識は、釣りクラブのもので、プライベートな釣り場であるという英語と、釣りの一日券はない、ということが書かれています。

Thames Path の道標が取れてしまい、ガムテープで傍の鉄パイプに付けられているものがありました。「写真 33」は道標が杭から取れてしまったのでしょう。Thames Path を管理している団体がガムテープで付けた、というよりも、近くに住んでいる人が、修理までの一時の間に合わせに、ガムテープで付けたものでしょう。このようなちょっとした心遣いが Thames Path を栄えさせているのです。この道標

写真 33

写真 34

があるところは曲がり角ですから、一時的な処置にしても、道しるべがあることは、Thames Path を歩いている人にとっては有り難いことなのです。

文字がなく、矢印とドングリの印だけが木の杭に刻まれているものがありました。「写真 34」がそれです。矢印は黄色、ドングリの印は白色でした。これだけの簡単なものでも設置されていれば、歩いている人にとっては、自分が Thames Path を歩いているということが分かり、安心できるのです。

5. 丸い道標

今までの写真にも何回か出てきましたが、丸い道標で Thames Path の道筋を示しているものがあります。どんな形の道標でも、または標識や掲示にしても、道筋の情報を与えてくれるものは、歩いている人にとっては有り難いものです。

一番多いものは「写真 35」の一番上にある丸い道標です。杭に釘で打ち付けてありますが、矢印の外側は白色で、矢印は黄色、そしてその矢印の中に、ドングリの印と「THAMES PATH」が黒色で書かれています。矢印の下には、小さな黒色の文字で「Public Footpath」と書かれています。丸い道標には、これと同じ形と色のものが多いのです。

上から 2 番目にある丸い標識には、黒色で、上に「CIRCULAR WALK」、下に「FOOTPATH」とあります。白色がベースになっていますが、真ん中の矢印は黄色で、矢印の中の丸くなっている箇所には白鳥の図柄があり、その回りに

「BUCKINGHAMSHIRE / COUNTY COUNCIL」と、この標識を設置した団体名が書かれています。ついでに 3 番目の丸い標識には「PUBLIC」「FOOTPATH」とあり、矢印の中は、2 番目の丸い標識と同じ図柄と同じ団体名が書かれています。

丸い道標の多くのものが、黄色の矢印になっていますが、黒色をベースにして、外枠と文字、そして矢印が白色というものがあります。それは「写真 36」で、Thames Barrier にある道標です。上から 2 番目にある丸い道標が Thames Path のものです。黒色をベースにして、文字と矢印は白色ですが、矢印の中に描かれているドングリの印は黒色です。この丸い道標には黄色が使用されていません。

一番上の丸い標識は、歩行者は右側、自転車は左側を通行するように知らせる標識で、青色をベースにして、白色で歩行者と自転車の絵柄があります。一番下の四角い標識は、「THAMES ROUTE 1」となっており、自転車の絵柄がありますので、サイクリングをしている人に知らせる標識です。

下の「写真 36」の丸い道標と標識は杭に取り付けられていますが、街灯を設置している金属の電柱に取り付けてあるのが「写真 37」です。この場所には、テムズ川を船で運ばれた砂利を取り扱っている工場があります。その工場の中を Thames Path が通っているのです。写真の中には Thames Path の上を横切っているベルトコンベヤーが写っています。丸い道標は「写真 36」と同じものが使われています。

黒色をベースにした道標で、真ん中に矢印ではなく、ドングリの印があるものが「写真 38」です。上に「THAMES PATH」とあり、下には「National Trail」と書かれています。この道標は Thames Path 上にあり、道の確認の意味と、サイクリン

写真 35

写真 36

Thames Path 沿いに設置されている道標

写真 37

写真 38

写真 39

写真 40

グの人が通りますので、サイクリングの人に、気を付けるように、と示しているものと思われます。

色だけで言うと、「写真 39」は濃青色をベースにし、白色の矢印があります。矢印の中のドングリの印も濃青色です。「THAMES PATH」と書かれている文字も濃青色で、鉄柱に取り付けられています。

白色のベースで矢印が空色のものが「写真 40」です。矢印の中にドングリの印と「THAMES PATH」が書かれてあり、矢印の外の下には「Public Bridleway」と小さく書かれています。文字とドングリの印は黒色が使われています。

Thames Path に関しては、方向を表す矢印は黄色が一番多かったのですが、それ以外の色も使われていることが分かります。これは歩く道、つまり Footpath だけの場合は黄色ですが、サイクリングや乗馬が同じ道を通っている場合は、どこに道標や標識の主体があるかによって色が変わってくるようです。

「OXFORDSHIRE WAY」「PUBLIC BRIDLEWAY」とある丸い標識は、「写真 41」

写真 41

写真 42

です。丸い杭に取り付けられており、矢印が青色になっています。これは乗馬用の道を表しています。

サイクリング禁止の場合は、「写真 42」のように、自転車の絵柄が赤い丸の中にあり、斜めに赤い線が引かれています。下に「NO CYCLING」と書かれて、サイクリング禁止がはっきりと分かるようになっています。この標識は白色をベースにして、文字と自転車の絵柄は黒色で、丸と斜めの線は赤色です。

このような Thames Path 沿いにある丸い道標は、いろいろなところに見ることができます。小さな道標なので取り付けやすく、さまざまな場所に取り付けられているのです。今までに掲載した写真にもあったように Thames Path の道標を取り付けるために作られた鉄柱や杭、そして電柱に取り付けられている箇所もあります。さらに、他の案内板のある柱（「写真 43」）、ゲートの柱（「写真 44」）や木製の柵（「写真 45」）、そして鉄線の柵を取り付けてある杭（「写真 46」）、橋（「写真 47」）やスタイル[3)]（「写真 48」）など､歩く人が分かりやすい場所に取り付けてあります。ですから、都市型 Thames Path と郊外型 Thames Path では、道に迷うことがあまりありません。田園型 Thames Path でも道標があるところは、安心して歩けるのですが、道標がなくて困ってしまうことがたびたびありました。

一般的に言って、田園型 Thames Path では、Thames Path 自体の整備があまり進んでいないところがあります。道標についても同じことが言えますので、地図や

Thames Path 沿いに設置されている道標

写真 43

写真 44

写真 45

写真 46

写真 47

写真 48

ガイドブックがなくては、そのような場合に困ってしまいます。

変わった取り付け場所としては、Thames Path の傍に横たわっている丸太に丸い道標が打ち付けられているものがあります。「写真 49」は丸太の切り口のところに、黄色い矢印の丸い道標が釘で打ち付けられています。

丸太の切り口ではなく、丸太の上に釘で打ち付けられているのが「写真 50」です。

写真 49

写真 50

写真 51

写真 52

「写真 51」を見れば分かりますが、この丸太が置いてある場所は、広い草地に入る所です。広い草地の中には囲いなどがないため、歩く人がどちらに行けばよいのか分からなくなります。この丸い道標の矢印の方向を見れば、左の方に行けばよいことが分かります。

Thames Path を歩いている人にとっては、この矢印はとても有り難いものなのです。意外な遊び心に、この黄色い矢印のある丸い道標を目にした人は、常に誰かが見守り、案内してくれているようで、有り難くなり、疲れている体に元気が出てくるように感じることでしょう。

これはやり過ぎではないか、と思うものが「写真 52」です。まだ生きている樹木に丸い道標が打ち付けられています。道筋が分かるので有り難いことは有り難いのですが、樹木が可哀想になります。ただし、このような掲示の仕方は他の場所にはなかったと思いました。

6. 看板の道標

今までの道標とは違い、看板になっている Thames Path の案内板があります。数としては多くはありません。例えば、「写真 53」の案内板です。この看板は Kew Gardens の近くにあった案内図です。テムズ川と Thames Path、そして地元の観光案内などが載っています。

Thames Path とその近隣の案内板として最も多いものは、テムズ川に設置されている Lock にあるものです。Lock とは閘門（こうもん）のことです。『広辞苑』（第五版）によれば、「船舶を高低差の大きな水面で昇降させる装置。二つの水門の間に、船を入れる閘室を持つ。船を閘室内に入れたのち水門を閉じ、閘室内の水位を昇降させて出て行く側の水位と同じにしてから船を進める」とあります。テムズ川には Lock が多いのですが、それは別の機会にまとめようと思っています。その Lock には、その区域のテムズ川と Thames Path などの案内板があります。その案内板は「写真 53」とは形が違います。

この「写真 53」の案内図は、その近辺には、観光客が訪れる場所が多いことを示しています。そして、この案内板が Thames Path 沿いに設置されているということは、この Thames Path の区間を歩いている人がかなりいるということも示しています。

Greenwich にあった大きな看板は「写真 54」で、赤色がベースになっており、文字は白色です。この看板には、テムズ川の氾濫や事故など緊急なことが起こった場合の連絡先が書いてあります。「999」は緊急電話番号です。

写真 53

写真 54

「GR92」とあるのは、この看板が設置されている場所の記号で、電話をした時にこの記号番号を言えば、携帯電話からの連絡でも、「COASTGUARD」（沿岸警備隊）は位置を確認することができるのでしょう。「GR92」が書いてある長方形は白色になっており、その中の記号番号は黒色で書かれています。

ロンドン市内にあった看板は、Thames Path 沿いにある街灯に取り付けられていました。「写真 55」です。「Canary Riverside」とあり、「Thames Path」の文字が見えます。

Marsh Meadows というところにあった看板は、Thames Path の名前が小さく書かれています。「写真 56」は一番上に「Welcome to Marsh Meadows」（マーシュ　メドウズにようこそ）と書かれています。Marsh Meadows とは「マーシュ草地」という意味ですが、ここは人々が憩いを求めて集まってくる所で、大きな公園と言ってもよいでしょう。子供の遊び場、そして町の中心地や観光案内所なども近くにあることが分かります。この看板にある Thames Path の表示には「Towpath to Marsh Lock 100m」とあります。「100m」の「m」は、この場合「マイル」ではなく「メートル」の単位を表しています。そして、その下に小さく「*Thames Path* NATIONAL TRAIL」とあり、ドングリの印が書かれています。矢印は斜め左手前を示しています。

看板にある「Towpath」とは「（運河・川沿いの）船引き道」という意味で、昔、馬などで船を引いて、航行を助けるために使用された川沿いの道のことを言います。現在はエンジンやモーターが発達しており、その必要はありませんし、船にロープを付けて馬で引っ張ろうとしても、川沿いの樹木が邪魔をして、引くに引けません。

写真 55

写真 56

Thames Path 沿いに設置されている道標

この看板の一番下には「Towpath to Hambleden Lock」とあり、やはり、その下には小さく「*Thames Path* NATIONAL TRAIL」とあります。ドングリの印が描かれていますので文字がなくても Thames Path だと分かります。矢印は斜め右前方を示していますので、上の Thames Path の表示の斜め左手前を示している矢印の方向と、この矢印の方向を考えると、この看板は Thames Path 沿いに設置されているものだということが分かります。

Thames Path を歩いていて、ある区間の道に別の名前が付いているところがありました。「写真 57」は「THE QUEEN'S WALK」とあり、その下に Thames Path の丸い道標がありました。この丸い道標は黒色で、文字と矢印は白色です。矢印の中のドングリの印は黒色でした。おそらく、イギリスの女王が歩いた道なのでしょう。

同じように別の名前が付いているものに、「写真 58」と「写真 59」があります。「写真 58」には「NICKOLS WALK」とあり、「写真 59」には「WILLIAM HENRY WALK」とあります。William Henry とはイギリス王のヘンリー I 世の名前だと思

写真 57

写真 58

写真 59

いましたが、ヘンリーⅠ世は 1068-1135 の人です。そんな時代に Thames Path はありません。イギリス人に聞きましたら、William Henry はヘンリーⅠ世ではなく、Nickols も William Henry も、おそらく、地元のコミュニティに貢献のあった人ではないか、ということでした。

我々日本人にとって、このような通りの名前がロンドンにあるのか、と少し驚くと思うのが、「写真 60」の「HIROSHIMA WALK」と「NAGASAKI WAY」です。「広島歩道」は左側へ、「長崎道」は右側へ、という指示の矢印があります。広島と長崎の名前が付けられていますから、平和を祈念して、命名されたものに違いないと思います。

「写真 61」の手作りの看板は、正確に言うと、Thames Path 沿いに設置されているわけではありません。この区間はテムズ川から離れたところにあります。Thames Path を真っ直ぐに歩いて行くと門があり、その上にあった看板です。「PRIVATE」（一般人立入禁止）と書いてあり、名前と住所がその下にあります。そして下の四角の枠の中に「テムズ・パスは家の裏側にあるので、70 メートル来た道を引き返し、高い木がある右の方へと曲がって、キッシング・ゲートを通りなさい」と指示がされています。

Thames Path を歩いている人の中には、Thames Path だと思い真っ直ぐに歩いて来て、門を開けて中に入ってしまう人がいるのでしょう。そういう私も、Thames Path が右に折れているとは知らずに、真っ直ぐに歩いてこの門のところまで来て、門を入るべきかどうかと迷っていたのです。真っ直ぐに歩いてきたお蔭で、この看板の写真を撮ることができました。

写真 60

写真 61

丸い道標の下に「Thames Path」という小さな道標があるのが「写真 62」です。何の標識もないと、どこかの家の庭にでも入っていく入り口のようにも見えます。Thames Path が分かりづらいということで、丸い道標の下に少し大きめの四角い道標を付けてあるのでしょう。

小さな看板が、杭などではなく、壁に取り付けられている場合もあります。「写真 63」は工場の外壁に取り付けられていました。この小さな標識には「Thames Path」の文字はありません。そこには「PUBLIC FOOTPATH」とあり、この標識は Thames Path 沿いにありました。右下にあるビデオカメラの図柄が描かれている看板は、防犯カメラが設置してある、という標識です。ロンドンは犯罪が多く、犯罪取り締まりと安全のために、あちらこちらに、本当に多くの防犯カメラが設置されています。

「写真 64」はテムズ川に入り込む用水路のところにある塀に取り付けられている Thames Path の道標です。黒色をベースにして、白色でドングリの印と歩行者の

写真 62

写真 63

写真 64

写真 65

絵柄が描かれており、白色の「く」の字の形が歩く方向を示しています。この場所は、左側にテムズ川が流れており、後ろに写っている建物沿いに Thames Path があります。標識がないと分かりづらいのです。

「写真 65」は塀に取り付けられた標識です。この標識に「Thames Path」の文字はありません。「教会へと歩く道」という英語が書かれています。しかし、その標識の斜め左下にある杭に、Thames Path の丸い道標があります。この一区間、Thames Path と教会への道が、同じ道になっているのです。

7. 歩く道と、自転車道や乗馬道の標識

Thames Path は歩く道ですが、サイクリングや乗馬を楽しんでいる人たちも一緒に通れる区間があります。

「写真 66」は自転車の絵柄のある標識が鉄柱に付いています。ただし、スピードを一旦緩めるように、Thames Path の上に鉄パイプで工夫がされています。

「写真 67」は Thames Path の道標がはめ込まれている杭に、自転車の絵柄の標識が打ち付けられています。「写真 66」と「写真 67」の両方の自転車の標識は、丸い外枠が赤色で、枠の中が白色、そして、そこに黒色で自転車が描かれています。

このように歩く道とサイクリングの道が分かれていない区間では、歩く人が優先なのは当然のことです。「写真 68」の標識には「Pedestrian Priority」（歩行者優先）という文字が書かれています。

写真 66

写真 67

Thames Path 沿いに設置されている道標

写真 68

写真 69

写真 70

写真 71

歩く道とサイクリングの道がはっきりと分かれているのが「写真 69」です。歩く人は当然ながら、左側の歩道を歩きます。サイクリングの人は、道路にバスが走っている左側に白線が引かれていますが、その白線と歩道の間を自転車で走るように指示されています。

同じ道を真ん中で分けて、歩行者とサイクリングをする人がぶつからないようにしているのが「写真 70」です。右側が歩行者用で、左側がサイクリングをしている人たち用です。道の上に白色で歩行者と自転車の絵柄が描かれています。この区間は自転車道自体も左右に分かれていて、道の上に描かれた自転車の絵柄の向きを見ると分かりますが、自転車は左側通行になっています。

この区間には道の上に描かれているだけではなく、「写真 71」のような標識も道端に設置されていました。

乗馬道については、Thames Path と同じ道の場合もありますが、その区間はあまり多くはありません。乗馬だけの道が確保されている場合が多いのです。

写真 72

写真 73

「写真 72」は杭にはめ込まれている標識です。Thames Path の道標と同じような作り方になっています。

「写真 73」は人が乗っている馬の形が白色で描かれており、その回りは緑色です。その外枠と杭は白色に塗られています。乗馬を楽しむ人たちがまだいるということは、ロンドン市内にある有名なハイドパークにも乗馬用の道があることでも分かります。

8. むすび

Thames Path 沿いに設置されている道標を「金属製の道標」「木製の道標」「丸い道標」「看板の道標」と見てきましたが、同じ一つの形の道標が Thames Path 沿いのすべてに使用されているわけではありませんでした。丸い道標に関しては、矢印の方向が異なる丸い道標を何種類か作っているというのが分かりますが、金属製と木製のものはかなりの種類がありました。手作りのものもありました。

同じ Thames Path の道標といえども、区間によって様々な道標があり、一律に同じものが利用されているわけではないのです。

このことは、Thames Path の道筋を示す、ということでは同じ目的を持っているのですが、表示や設置の仕方などはそれぞれに異なり、その異なるやり方を尊重しているということが分かります。また、それだけではなく、自分たちで道標を作っていることも多いということです。そこから考えても、Thames Path を愛している

多くの人たちがいる、ということが分ってきます。

Thames Path の管理団体が道標を作り、設置しているのとは別に、Thames Path 沿いに住んでいる住民で Thames Path を愛している人たちが、自分たちのやり方で、Thames Path の道標を作り、表示方法や設置の仕方を考えて、設置しているのです。

同じ一つの道標を強制的に強いていない、それに統一していないということが、Thames Path を愛する人たちに、Thames Path は自分たちの Thames Path だと感じさせることになり、その結果、今後も Thames Path を自分たちが守り続けていこうという気にもさせるのでしょう。そして、そのことが Thames Path を今後も長く栄えさせることに繋がっていくのだと思います。

以上

（この小論は、法政大学の 2007 年度在外研究により出来たものである）

注

1）石川郁二 2009「Thames Path の 3 分割」（『法政大学多摩論集』第 25 巻）。

2）ついでながら、写真 4 に写っている道標の下にある標識には、犬が便をしている絵があり、その下に「NO FOULING」と書いてあります。悪臭を放ってはいけない、ということですから、犬が大小の便をすることを禁じているのです。

3）石川郁二 2013「テムズ・パスに設置されているゲートやスタイルなど」（『法政大学多摩論集』第 29 巻）参照。